

都民とともに大会を創りあげ、 かけがえのない感動と記憶を残します

- 1964年の東京大会は、日本中に大きな感動をもたらし、今なお、多くの人々の記憶に残る大会となりました。
- 東京で2回目の開催となる東京2020大会を、人々の心に深く残り続ける歴史的な大会とするためには、オール東京で大会を盛り上げるとともに、都民一人ひとりに大会成功の担い手となってもらうことが重要です。
- そのため、東京2020大会に向けて、多くの都民が参加できる多種多様なプログラムを展開し、大会開催気運を醸成していきます。
- さらに、身近な地域で都民が参加できる様々な機会を創出することにより、地域の一体感を醸成し、コミュニティの活性化につなげます。
- また、大会を契機として都民のボランティア活動への参加を促進し、ボランティアの裾野を広げ、ボランティア文化を定着させます。
- こうして都民とともに創りあげた大会の感動と記憶を、都民一人ひとりの中に残し、心のレガシーとして次代に引き継いでいきます。

2020年に向けた取組の方向性

1 都民の皆様の参加を得て、大会開催気運を醸成します

多くの都民が幅広く参加できる多種多様なプログラムを展開し、大会開催気運を盛り上げていきます

主な取組

- ・ライブサイト、フラッグツアーなど、オリンピック・パラリンピックの魅力を体感できる多種多様なプログラムを展開
- ・シティドレッシング*による大会開催気運とおもてなしの雰囲気創出
- ・リオデジャネイロ大会期間中に現地にジャパンハウスを設置し、東京の魅力を世界に発信

2 「オール東京」で大会を成功に導きます

区市町村と連携し、都民に身近な地域から大会を盛り上げ、都内全域で都民参加の機会を創出します

主な取組

- ・事前キャンプ誘致の情報提供や先進事例の紹介など、きめ細かな情報提供と相談体制の構築
- ・区市町村の取組を支援して、身近な場所でスポーツに親しみ、おもてなしを学ぶ機会等を提供

3 大会を支えるボランティアの裾野を拡大するとともに、ボランティア文化の定着に向けた取組を進めます

関係各機関と連携を図り、大会を支えるボランティアの裾野を拡大するとともに、ボランティア人材の継続的育成、活動機会の拡大、人材と活動機会のマッチングなどの取組を進め、ボランティア文化の定着を目指します

主な取組

- ・企業、町会、学校など多様な主体との連携によるボランティアの裾野拡大
- ・おもてなし東京による街なか観光案内実施箇所の拡大
- ・ラグビーワールドカップ2019に向けて育成したボランティアを、東京2020大会の大会関連ボランティアにつなげる
- ・ボランティア情報の集約・発信とボランティア・コーディネーターの充実

1 都民の皆様の参加を得て、大会開催気運を醸成

2020年に向けた取組の概要

○オリンピック・パラリンピックの魅力を体感できる 多種多様な機会、プログラムを展開

■ 2016年リオデジャネイロ大会開催時にライブサイト（パブリックビューイング）を各地で開催するとともに、東京2020大会では最先端の映像・音響技術を活用するなど、臨場感あふれる大会の興奮、感動を実感できるライブサイトを展開していく。

■ リオデジャネイロ大会の期間中、海外メディアや世界からの観戦者が多く訪れるエリアにジャパンハウスを設置し、2020年大会の開催都市である東京の魅力を世界に発信する。

■ リオデジャネイロ大会閉会式でのフラッグハンドオーバーセレモニー*を通じて、2020年大会の開催都市である東京を世界へ強く発信する。また、引き継いだオリンピックフラッグ・パラリンピックフラッグの日本到着を歓迎するイベントや、フラッグをお披露目するフラッグツアーを各地で実施し、東京2020大会の開催気運を盛り上げていく。

■ 大会開催までの節目となる日のカウントダウンイベントや、競技会場の見学ツアー、マスコット・公式ソング等の発表イベントなど、東京全体で多種多様なプログラムを、組織委員会と連携して実施する。また、日本各地で開催されるイベントとの連携などについて検討し、スポーツ等を通じた高校生同士の交流促進など日本全体で大会開催気運を盛り上げるとともに、都道府県で連携した取組を検討する。

■ 都や区市町村等が主催するイベントで、パラリンピック競技の体験や展示等を通じて、パラリンピックの魅力を体感できるプログラム「NO LIMITS CHALLENGE」を展開する。また、同プログラムを全国に紹介し、パラリンピックの普及啓発をオールジャパンで展開する。

■ 全国知事会や都内区市町村の取組への協力や情報提供などにより、都内を含め日本全国での事前キャンプの誘致をサポートする。

■ ラグビーワールドカップ2019においてファンゾーン等のイベントスペースを設置して盛り上げを図り、東京2020大会の気運醸成にもつなげていく。

■ 多彩で魅力的な文化プログラム*や、オリンピック・パラリンピック精神の理解を深める教育プログラム*を通じて、都民・子供たちに様々な体験の機会を提供する。



オリンピックカウントダウンイベント「みんなのTokyo 2020 5 Years to Go!!」



パラリンピックカウントダウンイベント「みんなのTokyo 2020 5 Years to Go!!」



レインボーブリッジ ライトアップ

○ 様々な主体と連携して、東京全体に開催都市の雰囲気を創出

■ 大会に向けた地域や民間団体等の自主的な取組を応援する仕組みを組織委員会と連携して検討する。

■ 大会に参加することができた感動と喜びをもたらすため、大会の象徴的イベントである聖火リレーに、より多くの都民・地域が関わられるよう組織委員会など関係各機関と協力していく。

■ 大会エンブレム等を用いた都庁舎や大会競技会場等へのシティドレッシングを順次拡大し、東京の街全体でオリンピック・パラリンピックの開催を祝い、東京を訪れる人々へのおもてなしの雰囲気を創出する。

■ 外国人の快適で安全な東京滞在を実現するために、多言語対応協議会が策定した取組方針の具体化を進めるとともに、協議会を活用し、先進的取組事例やノウハウ等の情報を発信することで全国における取組を支援する。

○ 様々なメディアを通じて、多くの都民、国民に大会をPR

■ ホームページやマスメディアを通じて、東京2020大会の魅力を伝える多種多様なプログラムを戦略的にPRしていく。また、SNS等を活用して、都民との双方向のつながりを重視した情報発信を行っていく。

2 「オール東京」で大会を成功に導く

「オール東京」で各地域から大会を盛り上げ、
都内全域で都民参加の機会を創出



2020年に向けた取組の概要

○先導的取組の展開

■ 都内各地でパラリンピック競技体験プログラム等を展開し、身近な地域から大会に参加し、ともに大会を盛り上げる機会を東京全体で創出していく。

また、島しょ地域に、オリンピック・パラリンピアンを派遣するなど、各地域のニーズに応じた取組を都内全域で推進する。

○きめ細かな情報提供と相談体制の構築

■ 大会に向けた区市町村の先進取組事例を紹介するイベントの開催や、事前キャンプ誘致に関する情報提供など、都と区市町村が相互に連携して取組を推進できるよう情報提供・相談体制を構築する。

■ 東京自治会館を市町村への情報発信の拠点とし、オリンピック・パラリンピックの魅力を伝える写真や映像の紹介など、事業実施に役立つ情報を積極的に提供することにより、各地域での様々な事業展開につなげていく。

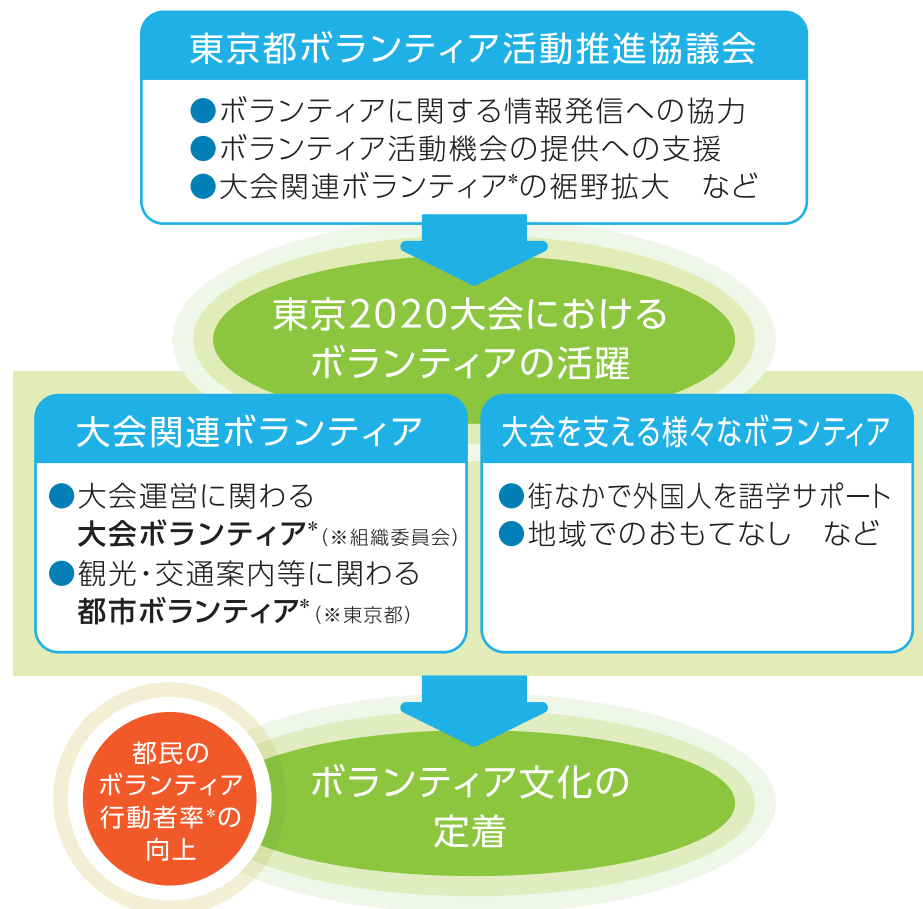
○区市町村の取組への支援

■ 地域住民が、身近な場所でオリンピック・パラリンピックの魅力と感動を体験し、スポーツに親しむ機会や、東京を訪れる外国人旅行者へのおもてなしを学ぶ機会を提供していくため、区市町村の取組を支援していく。

■ 区市町村におけるボランティアの育成や、地域でのおもてなしを提供する自発的な取組の活性化に向けて、「東京都ボランティア活動推進協議会」を通じた関係団体間の連携強化や、区市町村の取組への支援を行っていく。

3 大会を支えるボランティアの裾野を拡大するとともに、ボランティア文化の定着を目指す

都民のボランティア活動への参加を促進し、ボランティア文化を定着



2020年に向けた取組の概要

○大会を支えるボランティアの裾野拡大

■ 経済団体や企業、町会・自治会等の民間団体、学校、国、組織委員会、都内区市町村、競技会場のある他都市や被災県などの関係地方自治体、東京都等で構成する「東京都ボランティア活動推進協議会」の設置により、東京2020大会の成功に向けて多様な主体が連携し、円滑なボランティア活動に向けた取組を推進する。

■ 大会関連ボランティアの裾野拡大及び気運醸成に向けて、ボランティア情報を紹介するホームページの開設や、過去の大会におけるボランティアの活躍等を伝えるシンポジウムを開催するなど、情報発信を進める。

■ 「東京都ボランティア活動推進協議会」の構成団体それぞれが、ボランティア活動に関心の薄い都民や受入れ側などへの情報発信、ボランティアの新たな活動場所や活動しやすいメニュー開拓の働きかけ、大会関連ボランティアの裾野拡大などの取組を推進し、気運を醸成する。そして、障害のある人もない人もボランティアに参加しやすい環境づくりを進め、裾野拡大を図る。

■「東京都ボランティア活動推進協議会」を通じて、企業、学校、地縁団体や都内在住外国人団体など、様々な主体との連携を推進し、多言語による観光・交通案内の体制を構築する。

■おもてなし東京（観光ボランティア）による「街なか観光案内」の実施箇所を拡大するとともに、活動に対して必要なサポートを提供し、大会時の都市ボランティアの核として活躍する人材を育成する。また、中高生を対象に、外国人旅行者に東京の魅力を伝える「おもてなし親善大使」を育成する。

■外国人に対するおもてなしと英語等での簡単な道案内ができる「外国人おもてなし語学ボランティア」の育成講座を、大会まで継続的に開催する。また、区市町村と連携して地域における自発的なボランティア育成の取組を支援し、大会時に会場近隣に限らず都内各所でボランティアが活躍できるよう取り組んでいく。

■パラリンピックに向けて、大会関連ボランティアの育成において、障害のある人へのサポート方法などの研修を行う。

■ラグビーワールドカップ2019に向けて育成したボランティアを、東京2020大会の大会関連ボランティアにつなげていく。



○ ボランティア活動への参加促進と ボランティア文化の定着

■ 様々なところで発信されているボランティアに関する情報の集約やSNSの活用を図り、ボランティアに関心のある都民に向けて、分かりやすく情報を発信する。また、ボランティアに参加する側と受け入れる側を結ぶボランティア・コーディネーターを充実し、ボランティアに関心のある都民が活動に参加しやすい環境を整備する。

■ 多くの大学、企業、NPO法人が集積する東京の特性を生かし、それぞれと地域とを結ぶネットワークを構築し、地域の中での様々なボランティア活動機会を開拓する。また、企業等と連携し、短時間でもボランティア活動に参加できる機会の充実を図る。

■ 企業、学校などの優れた取組に対する表彰制度の導入などボランティア活動へのインセンティブの付与等により、ボランティア文化の定着に向けた取組を推進し、2024年度の都民のボランティア行動者率40%の達成につなげる。

■ 「共助社会づくりを進めるための指針（仮称）」を策定し、都民のボランティア活動を推進する。また、東京ボランティア・市民活動センターによる活動支援体制の強化を図り、都民のボランティア活動への参加気運を醸成する。

